

[参考事項]

成果情報名：秋田県におけるベノミル剤耐性アスパラガス茎枯病菌の発生

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担 当 者 齋藤隆明・藤井直哉 他 1 名

[要約]

県内のアスパラガス栽培圃場からアスパラガス茎枯病菌を採集し、ベノミル剤の感受性検定を行った結果、耐性菌が県内で広く発生していることが示唆される。

[キーワード]

アスパラガス・アスパラガス茎枯病・ベノミル・耐性菌

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

アスパラガス茎枯病はアスパラガス栽培における重要病害の一つであり、生産現場では栽培期間中は7～10日間隔に本病害に対して薬剤防除が行われている事例が多い。他県ではベノミル剤耐性アスパラガス茎枯病菌の発生が報告されており、本県でも薬剤感受性の低下が懸念されている。そこで、本試験では県防除基準に採用されているベンレート水和剤について感受性検定を行う。

[成果の内容及び特徴]

- 1 県内のアスパラガス栽培圃場52地点からアスパラガス茎枯病菌(1地点あたり1菌株)を採集して平板希釈法(MIC法)による感受性検定を行ったところ、50地点で耐性菌が確認された(図1)。
- 2 ベノミル剤(ベンレート水和剤)に対して感受性の低下が認められた地点の割合は80～100%と非常に高く、県内全域で耐性菌が広く発生していると考えられた(表1)。

[成果の活用上の留意点]

- 1 今回調査したアスパラガス圃場ではベノミル耐性菌の割合が非常に高く、かつ県内で広く発生が確認されたことから、ベンレート水和剤やその同系統剤(MBC剤)を使用しない。
- 2 MICとは菌の生育を阻止するために必要な薬剤の最小濃度であり、 $MIC \geq 400\mu\text{g/ml}$ の菌株をベノミル剤耐性アスパラガス茎枯病菌とした。

[具体的なデータ等]

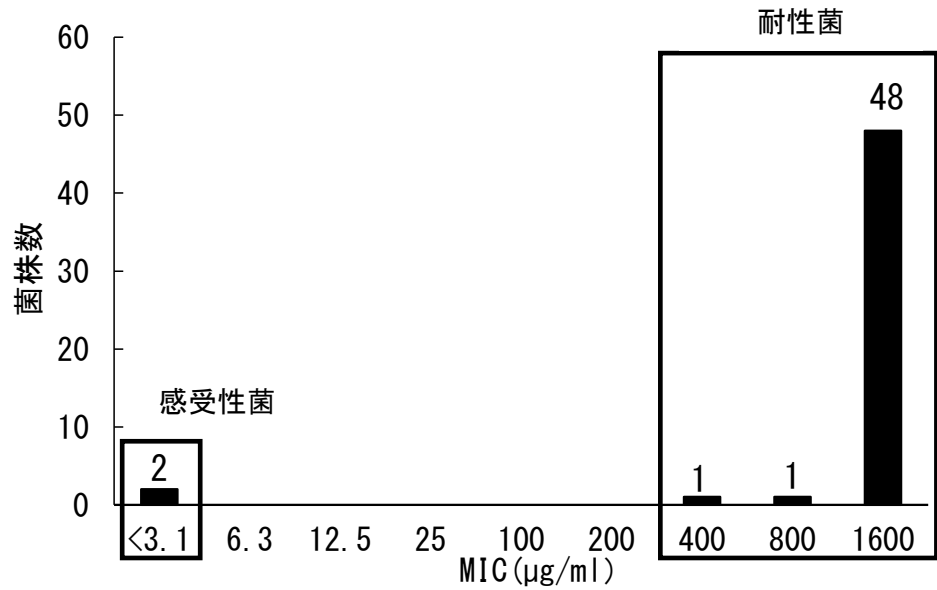


図1 アスパラガス茎枯病菌のペノミル感受性頻度分布

※1 図中の数値は菌株数を表す。
※2 MIC≥400μg/mlの菌株をペノミル剤耐性アスパラガス茎枯病菌とした。

表1 県内のアスパラガス圃場におけるペノミル剤耐性アスパラガス茎枯病菌の発生状況

地域名		検定 地点数	耐性菌 検出地点数	耐性菌 検出地点率
県北部	鹿角	6	6	100%
	北秋田	9	9	100%
	山本	5	4	80%
県中央部	秋田	4	4	100%
	由利	9	8	89%
県南部	仙北	5	5	100%
	平鹿	9	9	100%
	雄勝	5	5	100%
合計		52	50	96%(※平均)

※1 地点あたりアスパラガス茎枯病菌1菌株を供試して感受性検定を行った。

[その他]

研究課題名：アスパラガス茎枯病耐性菌検定
研究期間：令和元年度
予算区分：その他
掲載誌等：植物防疫年報(2020)